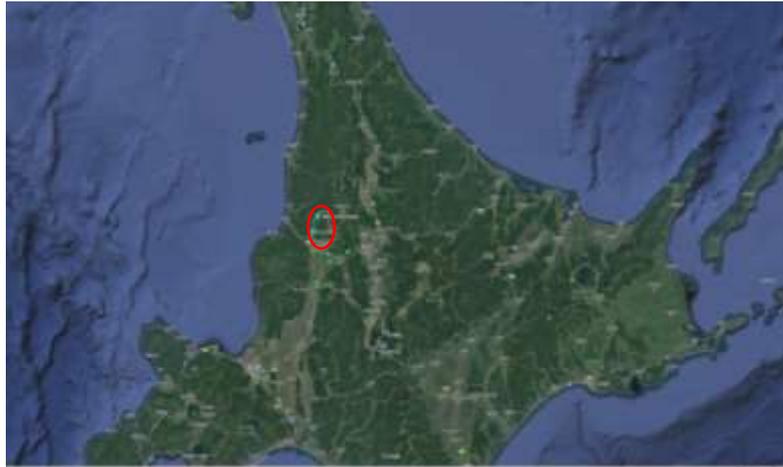


キノコ狩りに沸く森 —森づくりの意図しなかった効果—



沼田どってこどってこ 代表 寺木佳奈

沼田町の概要



- 人口 3千人
- 主幹産業 農業（米、花、トマト）
- 森林面積 2万ha 町全体の7割を占める
 - 【内訳】 国有林 1万ha
 - 私有林 1万ha うち9割が三井物産フォレストの社有林
- 豪雪地帯 年間降雪量 11 m、積雪 2 m

町民の森づくりへの関心は低い

団体の紹介 沼田どってこどってこ

- 会員 5名 (設立当時)

町内 地域おこし協力隊 (夫婦)
指導林家 (農家)

町外 自営業者
林家



団体名の由来

きのこはみんないそがしそうに、
あのへんな楽隊をつづけました。

どってこどってこ、

宮沢賢治『ドングリと山猫』

取組の趣旨

身近な森と人をつなぐ

- ・ 70年生のカラマツ・トドマツ林

指導林家が10年数年前に町民に頼まれて購入
林家も一度も足を踏み入れてないままだった



指導林家さん

「誰でも気軽に入れる森にしてほしい」

作業内容

作業道の整備、間伐、枯損木の除去、見通しをよくするためのササ刈

作業道の整備



間伐



胸高直径25cm以下で将来性のない木

作業道敷設と危険木の伐採により
気軽に林内に入れるようになり、
様々な活動ができる。



高穂スキー場の
林間コースとして？



しかしながら、コロナ感染拡大でイベント開催はなかなか難しかった..

キノコ狩りに沸く森へ

道を付けたことでハナイグチが大発生



- 指導林家さん
- 昔からこの山でキノコを採っていた近隣のおじさん
- 50年ぶりに沼田町に帰ってきた80代男性
- 私たちの友人家族

成果

- ・所有者をはじめ、あまり森になじみのない人や、何十年も森に入っていなかった人がキノコ狩りのために高穂の森を訪れるようになった
- ・林業者どうしのつながり増えた



技術向上の場として

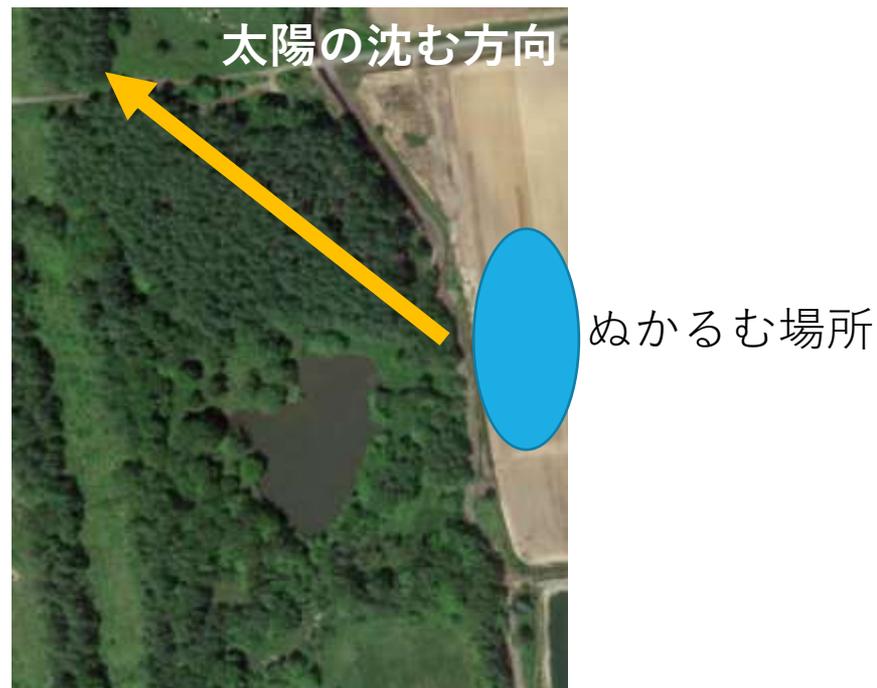
• 地域おこし協力隊の任期終了後に林業を中心に収入を得て定住したかった

- ✓ 林業技術の向上の場
- ✓ 収入を得るための試行錯誤の場



農業と関連した森林施業

- 日当たり改善のための間伐



間伐で日当たり改善はなかなか難しい

大学生のフィールドとして



カラマツ林への
広葉樹混交のプロセス

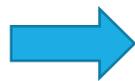
- 毎木調査
- 広葉樹の稚樹のカウント

地域住民の山林を多面的交付金で施業させてもらうことの意義



✓所有者のニーズが明らかになり
地域の課題が見えやすい

✓自分たちの森づくりをより近く
で所有者にみてもらえるチャン
スになる。



林業を地域を活性化につなげる
きっかけになる

課題と今後の展開

- 森への来訪はそれぞれのグループや個人単位にとどまる
- 人と人の交流が生まれるようなしかけづくり

子供たちが走り回れるような小道の整備
見通しのさらなる改善

